



曹洞宗 針倉山

永林寺

幕末名匠 石川雲蝶 作品紹介
【拝観ガイド】



建物内の撮影は一切禁止

名匠 石川雲蝶について

石川雲蝶は、幕末から明治にかけての彫工(ほりく)の名匠で、本名を『安兵衛』という。現在の東京都内の雑司ヶ谷の生まれである。越後三条の酒井くにと結婚、酒井安兵衛と称したが、堂塔大工・彫工の仕事の時は、石川流の流派を名乗り石川雲蝶として越後を主として活躍したのである。

本堂内天井三方向にある『支輪(しりん)』は、石川流の教え、見ずに訊くの象徴である。

弁成和尚と雲蝶

弁成和尚と雲蝶は、共に爪をかみ、酒を愛し百年の知己の如く語り合い、本堂いっぱいの力作を手間暇を惜しまずに制作し完工すると夜を徹して酒を飲みあかしたとのこと。

※石川雲蝶については、詳しく説明した「石川雲蝶の物語」を販売していますので、お求めください。

一般参加可能な年中行持として

■3月15日11時～
涅槃会(だんご撒き)

石川雲蝶作の涅槃図(寺宝)の前で読経・修行をします。
涅槃図はこの日の午前中しか一般公開しません。

曹洞宗 針倉山



永林寺

〒949-7403

新潟県魚沼市根小屋1765

TEL 025(794)2266

FAX 025(794)2361

公式HP <http://eirinji.jp>

永林寺について

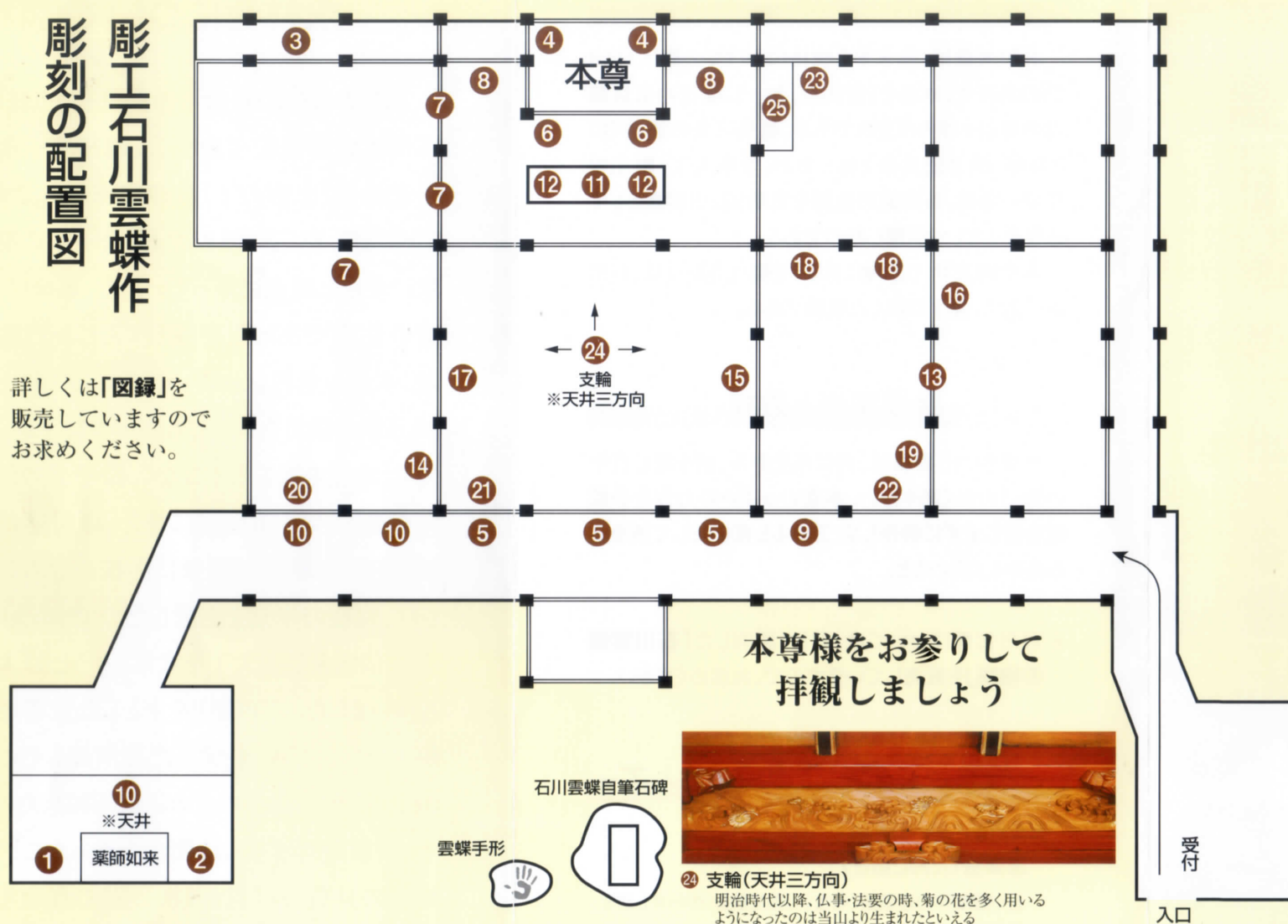
永林寺は500有余年の法燈を守り続け、作州津山藩祖松平忠直公、越後高田藩松平光長公(忠直の子)の御位牌を安置することにより、左三つ巴の紋より松平家の葵の紋に変紋し現在に至っています。幕末に、当時の住職であった弁成(べんじょう)和尚が、本堂の老朽化に伴い新築の請願をしたが、5年の歳月を過ぎても許可されなかったもので、本堂を造るのではなく、松平公の位牌堂を造るという請願書に替え、津山藩江戸屋敷、高田藩江戸屋敷に応援を求め許可され、現在の本堂を造営したのです。当時、寺院仏閣を造る大工を堂塔(どうとう)大工と言いました。江戸彫りを主とした堂塔彫刻が華々しく、雲蝶が学んだ石川流もその一派で、永林寺造営のために魚沼に来たのです。請願許可までに時間がかかったことで、地元の良質の材料が揃い、200有余年の今に至っています。

この永林寺の本堂は、雲蝶がプロデュースまでやって残した最後の現存する建物です。

※現在永林寺は、訪れる方々の笑顔を求め、ニコニコ衆と皆の宗の双本山でもある。

彫工石川雲蝶作 彫刻の配置図

詳しくは「図録」を
販売していますので
お求めください。



- 1 開祖道元禅師座像
- 2 開山竹岩全虎大和尚座像
- 3 松平家の位牌と葵紋章
- 4 十六羅漢像
- 5 雲水龍
- 6 迦陵頻伽
- 7 天女(飛天)
- 8 桐に鳳凰
- 9 孔雀
- 10 小夜之中山蛇身鳥物語
- 11 香炉台(天の邪鬼)
- 12 燈籠台(牡丹に唐獅子)
- 13 浅彫欄間 活け花 茶道具
- 14 浅彫欄間 雨中の鷺
- 15 浅彫欄間 朝顔
- 16 浅彫欄間 松に三日月
- 17 浅彫欄間 葡萄
- 18 浅彫欄間 波に金鯉
- 19 浅彫欄間 波に黒鯉
- 20 板絵 鶏
- 21 板絵 松に鶴
- 22 板絵 梅に山雀
- 23 書院障子
- 24 本堂 支輪(天井 三方向)
- 25 寝牛と蛙



7 天女(飛天)
雲蝶代表作のひとつで有名な作品



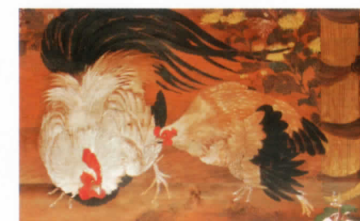
9 孔雀
専門家の評価が高い



11 香炉台 天の邪鬼
雲蝶最晩年の作品



19 波に黒鯉
版木によく使われる手法のデザイン



20 板絵 鶏
雲蝶の絵画力を示す代表作